

令和3年2月1日

敬愛短大附属幼稚園だより 2月号

1 貴重な冬の香り



昨年に季節の変化を植物の香りでも感じさせたいという考えから始まった環境づくりのうち、幼稚園では数少ない「冬の香り」として、蠟梅の花の香りがよくわかります。

黄色い花を咲かせ、先生方が子どもたちに蠟梅の甘い花の香りを感じさせてくれています。蠟梅は花が咲く頃には、それまで枝にあった葉が落ちて幹が多くの花で覆われます。幼稚園の蠟梅は、樹高が約2m程で、大きめの鉢に植えられています。大きくなることを想定して、ゆくゆくは地植えにしたいところです。

2 時間は存在しない？

「現在・過去・未来」と言葉を並べると歌詞のようですが、全て時間軸に支配された言葉となっています。そこで「時間」という概念について考えてみたいと思います。

世界が今どんな状況であっても「時間」という概念はどのような人にも平等に存在すると考えられています。但し、「今」を一瞬でも過ぎると人はその時間を「過去」と呼び、「今」から少しでも先は「未来」と呼んでいます。

私たちはこのように「時間」という見えない存在を概念としてとらえています。しかし、ある研究者によると、そもそも「過去・未来」という時間は存在せず、「現在」だけが存在しているのだと述べています。

では、なぜそのように考えることができるのでしょうか。人は様々な感覚を感覚器官によって収集し、脳に信号を送ってどのような感覚であったかを判断しています。しかし、その一部には、明確な感覚器によらないものも存在しています。例えば、第6感のようになかなか説明がしにくいものもあります。

「時間」という感覚も実は脳において記憶として存在するもので、その記憶が過去にあった記憶を呼び出すことで存在するのだと言われたりもします。益々なんだかわかりにくくなったかもしれませんが、時間は存在しておらず、脳にある記憶が「過去」という「時間」があったかのようにさせているという事なのです。

そのため、「現在」の出来事が「今」として脳に記憶として収容され、それが引き出された時に「過去」という時間になっているわけです。

Facebookなどで良く見かけますが、過去の投稿があ那时的今日の出来事として良く出てきます。その際、高齢者はその記録を再投稿することが多く、若者は現在の出来事を投稿することが多くなる傾向にあります。昔はこうだったと高齢者は過去を語り、若者は今と未来を語るといったところでしょうか。この傾向は顕著に出ていると私も感じています。

例え過去や未来という「時間」が存在していなくとも、いつの時も私は「現在」を力強く生きることで、過去でなく、未来を語る人であり続けたいと思っています。

(園長 杉山清志)